

## 第1回大森町ルール検討委員会参加報告書

2008年6月20日

会場 大森町交流センター

### 議事内容

#### 1、経過説明（大田市石見銀山課より）

委員会設立の経緯、目的の説明

#### 2、自己紹介

#### 3、ディスカッション

##### (1) 土地と家屋の利用について

・大森町内には現在80戸以上の空き家があり、町民の方々は空き家・空き地の有効活用を苦心しておられる。というのも、大森町の町並み保存地区は古来より、住居・商店として活用されてきたが、近年、殊に世界遺産登録前後から外部からの人の流入、新しい商店や大森町の景観にそぐわない商店の展開が目立ち、従来の町並みの在り方が急激に変化したのである。こうした変化に、一部地域住民の中からは「静かな頃の大森が良かった」といった否定的・批判的な意見が出ており、大森町ルール検討委員会では土地・建物の売買に関して一定の規制を設け、大森町の文化・伝統・町並みに相応しくない土地・建物の利用を考えている人には大森町への移住を断るといったルール案も出ている。

一般的に外部からの人の流入は、島根県のような過疎地域においては歓迎すべき事象なのであるが、大森町の住人からは、「若い人は昼間の経済活動だけで、夜の自治会活動や自治会行事などには積極的に参加してこない」・「新しく入ってきた若い人は町内で護ってきた横のつながりに積極的に関与しようとしなない。そのために、横のつながりが薄れつつある」といった意見も交わされ、定住推進を行ううえでの問題も浮き彫りになった。

##### (2) 地域住民の暮らしの安心・安全について

・石見銀山遺跡の世界遺産登録に前後して、大森町にやってくる観光客は増加の一途をたどり、昨年は前年比130%増という増加率を記録した。そのため、観光客の増加に比例し、自動車の流入量も爆発的に増加した。その結果、住民側から、「車の増加によって、地域のお年寄りが外出できなくなった」・「路線バスが観光客で一杯になってしまい、住民が利用できない」といった意見が寄せられ、ルール検討委員会だけでなく、協議会のほうでも路線バスの廃止と大森町世界遺産センターからのシャトルバス運行の前倒し導入が要求され、大田市側は、本年10月までの路線バスの廃止・世界遺産センターのフルオープンにあわせてのシャトルバスの導入を目指すと言明したが、シャトルバス導入の際に、銀山地内の駐車場が無料のままでは、観光客の不満を煽ることになるという予測から、代官所前駐車場・銀山公園駐車場の有料化を申し出た。これ

に対し、議長の松場氏は「徒に駐車場を有料化すれば住民の中から私有地を有料駐車場にする者も出てくるだろう。そうなればこぞって駐車場の建設が始まり、町内の最低限のモラルすら崩壊し、白川郷の二の舞になってしまいかねない」と危機感を顕わにし、この問題は次回の委員会ですらに協議を重ねるとした。

#### 総評

前回の協議会につづき、レベルの高い話し合いであり、学生程度が口を挟めるものではなかった。しかし、学生は大田市とも大森町民とも違う第三者の視点で参加できるので、事実を客観的に観察することが必要になると思われる。また、議長の松場氏からも「第三者の視点から、こんな大森だったらいいなあ」というビジョンを考え、深めていてもらいたい、という要望をいただいた。今後参加する委員会・協議会を通じて大森町に対する独自のビジョン・考えを構築していくことが我々学生の仕事になるだろう。

2008年6月20日

井上厚史ゼミ4年 大草士郎